

レモン哀歌 あいか

たかむらこうたろう 高村光太郎 『ちえこしやう智恵子抄』より

そんなにもあなたはレモンを待っていた

かなしく白くあかるい死の床で とこ

わたしの手からとった一つのレモンを

あなたのきれいな歯ががりりと噛んだ か

トパアズいろの香気が立つ こうき

その数滴の天のものなるレモンの汁は すうてき

ぱつとあなたの意識を正常にした

あなたの青く澄んだ眼がかすかに笑う すめ

わたしの手を握るあなたの力の健康さよ

あなたの咽喉のどに嵐はあるが

こういう命の瀬戸ぎわに

智恵子はもとの智恵子となり

生涯の愛を一瞬にかたむけた

それからひと時

昔山巔さんてんでしたような深呼吸を一つして

あなたの機関きかんはそれなり止まった

写真の前に挿さした桜の花かげに

すずしく光るレモンを今日も置こう

テキストは「青空文庫」をもとに加工しています。

[https://www.aozora.gr.jp/cards/001168/files/46669\\_25695.html](https://www.aozora.gr.jp/cards/001168/files/46669_25695.html)